

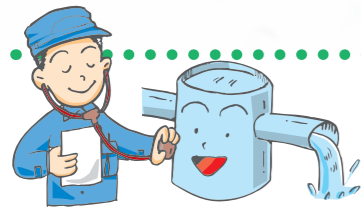
# 自然の恵み「水」に感謝しましょう！

蛇口をひねれば当たり前に出てくる「水道水」。この水道水のもとには、ダムや川の水、地下水などがあり、すべて自然の恩恵を受けています。下関市の水道水も様々な水源から取水していますが、大部分を豊田町の木屋川ダムに依存しているため、木屋川ダムの貯水量が水道水の安定供給に大きく影響します。

## 令和5年度の水源状況

令和5年度は8月以降少雨傾向となったことや、台風の上陸がなかったことから、8月から11月にかけて木屋川ダム付近における降水量が平年（直近10年平均）の38.5%にとどまりました。その結果、木屋川ダムの貯水量は加速度的に減少し続け、8月末には71.6%だった貯水率が12月には36.4%となりました。

下関市では、木屋川ダムの貯水量が一定量まで下がるといわれる「渇水」の状況と判断し、対応策を上下水道局をはじめ関係機関と連携しながら考えていくこととしています。令和5年度は10月に渇水の状態になりつつあると判断し、上下水道局渇水対策準備委員会を設置後（10/25）、対策を検討する中でさらに少雨が続いたため、下関市渇水対策本部を設置し（12/25）、テレビCMやラジオCMをはじめ、様々な方法で節水を呼びかけるなどの広報活動を行いました。幸いにも、年末から令和6年2月にかけてのまとまった降雨により、2月下旬には木屋川ダムの貯水量も平年並みに回復し、市民生活に大きな支障が生じることなく渇水を乗り切ることができました。あらためて自然の恵みに感謝するとともに、蛇口をひねると「水道水」が出てくることのありがたさを実感する出来事となりました。節水にご協力いただきありがとうございました。



## 管路や施設の老朽化状況（耐震化の必要性について）

私たちの生活に必要不可欠な「水道水」をはじめ、自然は豊かな恵みを与えてくれますが、時として大きな災いをもたらします。上下水道局では地震などの災害時にも断水とならないよう、5,000m<sup>3</sup>以上の主要な配水池や特に給水が必要な医療機関へ供給している配水管について、補強や更新による耐震化を進めています。また、老朽化した送水管についても、耐震継手の管路に更新することとし、あわせて水道施設の強靱化に取り組んでいます。

令和6年度には、下関市の基幹管路である長府浄水場から長府配水場への送水管を更新する工事に着手します。また、主要配水池の1つである彦島配水池を耐震化するための実施設計（計画策定）を行うなど災害に強い水道への取り組みを進めています。



長府浄水場～長府配水場間送水管（昭和41年布設）

## 令和6年能登半島地震における応急給水活動について

上下水道局では、令和6年1月1日に発生した能登半島地震による断水への対応として、公益社団法人日本水道協会からの要請に基づき1月27日から2月4日まで石川県穴水町へ職員（3班、延べ人数11人）を災害派遣しました。

現地では3トン給水タンク車で浄水場から給水拠点に設置している自衛隊の給水タンクや他自治体の給水タンク車等へ搬送補水・給水し、自衛隊と連携して被災者へ応急給水活動を行いました。



補水作業



給水作業

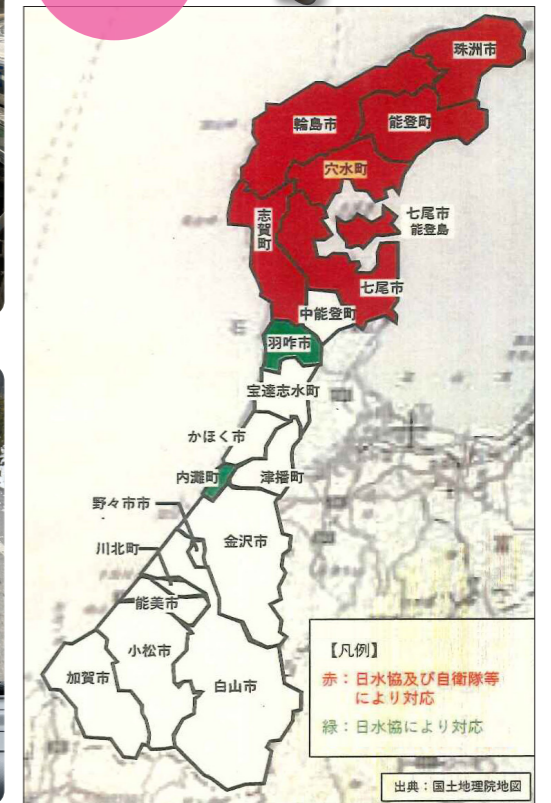


応急給水活動



亀裂の入った道路

作業場所  
位置図



## 災害発生時の協力体制の紹介



上下水道局では、市内で大規模な災害が発生した場合に備えて、災害復旧にご協力いただける民間団体や企業等との災害時協定を締結しています。

詳しくはQRコードのHPへ掲載しております。ご確認ください。



災害時協定の締結について

検索